鹿 病 防 第 2 9 号
令和２年９月30日

各関係機関の長　殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和２年度病害虫発生予察情報について

このことについて，発生予報第７号（10月）を発表したので送付します。

鹿 児 島 県 病 害 虫 防 除 所

〒899-3401
南さつま市金峰町大野 2200
℡099-245-1081（代表）
099-245-1157（直通）
099-245-1149（FAX）

テレホンサービス
鹿児島　099-296-6430
296-6431

ホームページアドレス：http://www.jppn.ne.jp/kagoshima

メ ー ル ア ド レ ス：nousou-boujo@pref.kagoshima.lg.jp

農薬の安全使用に努めましょう

農 薬 安 全 使 用 五 つ の 柱

１.使用する人の安全　使用者自身の健康管理，安全使用
２.作物に対する安全　適期，適正防除で薬害防止
３.農産物に対する安全　消費者へ安全な農産物を供給
（農薬安全使用基準の遵守）
４.環境に対する安全　周辺環境への影響防止
（周辺住民等への危被害防止）
（河川，湖沼，海などへの汚染防止）
（養蚕，養蜂などへの危被害防止）
５.保管管理の安全　保管管理の徹底で事故防止

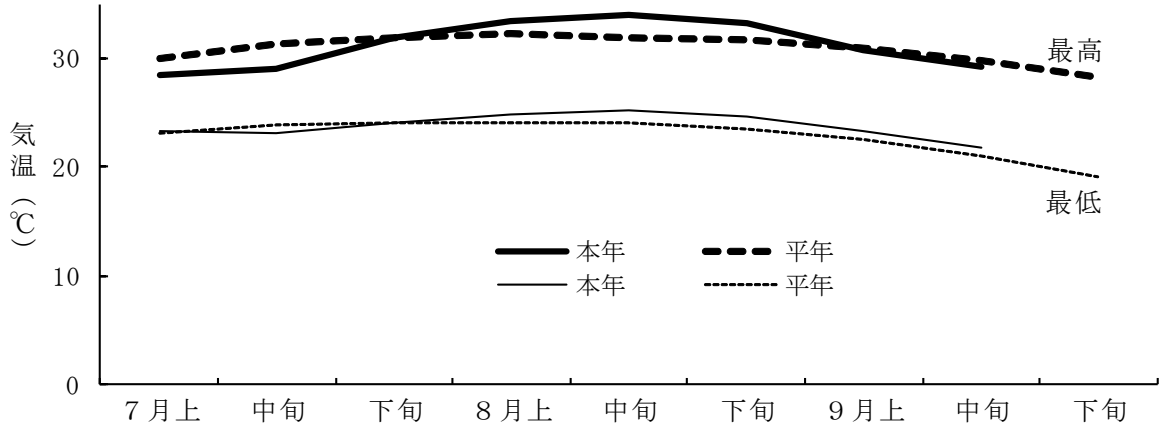
農薬ラベルを確認しましょう。
農薬の飛散（ドリフト）にも注意しましょう。

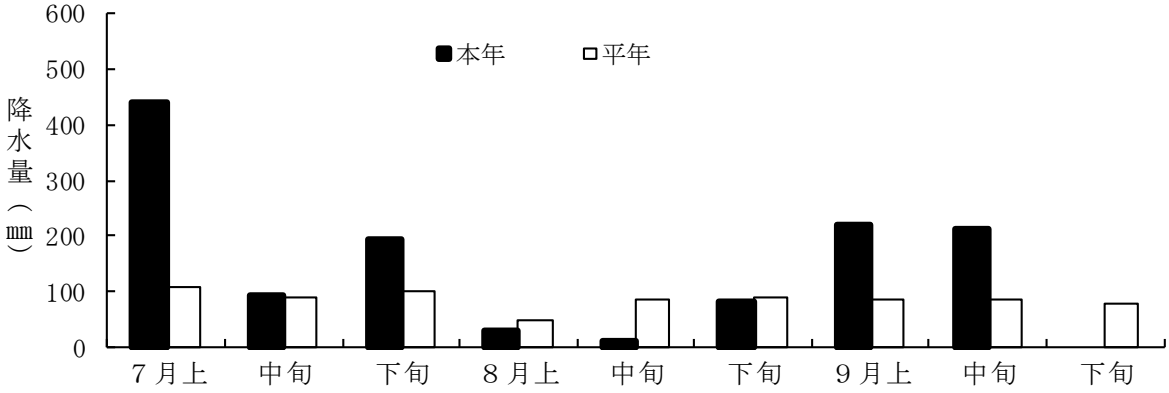
【気　象　概　況】

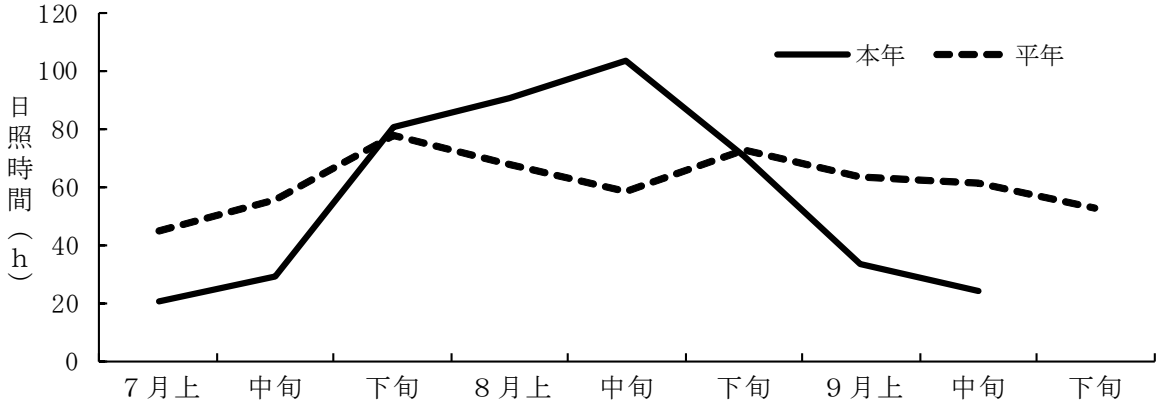
Ⅰ．向こう１か月の予報（９月26日から10月25日）　令和２年９月24日　鹿児島地方気象台 発表

要　素	地　　域	確　率　（％）			概　　要
		低い(少ない)	平　年　並	高い(多い)	
気　　温	九　州　南　部	３０	***４０***	３０	九州南部は気温は平年並み，降水量は平年並みか少なく，日照時間は平年並みか多い見込み。奄美地方は気温は平年並みか高く，降水量，日照時間は平年並みの見込み。
	奄　美　地　方	２０	***４０***	***４０***	
降 水 量	九　州　南　部	***４０***	***４０***	２０	
	奄　美　地　方	***４０***	３０	３０	
日照時間	九　州　南　部	２０	***４０***	***４０***	
	奄　美　地　方	３０	３０	***４０***	

Ⅱ．６～８月の気象情報（鹿児島地方気象台　観測点：加世田）







【病害虫発生予報の概要】

作物		病害虫名		発生量	
				現況	予報
花き	キク	黒斑病・褐斑病（奄美地域，露地）		並	並
		ハダニ類（県本土，施設）		少	少
		アザミウマ類（県本土，施設）		少	少
果樹	カンキツ	かいよう病（県本土・熊毛地域）		やや少	やや少
		〃　（奄美地域）		やや少	やや少
		黒点病（県本土・熊毛地域）		やや多	やや多
		〃　（奄美地域）		並	並
		ミカンハダニ（県本土・熊毛地域）		少	やや少
		〃　（奄美地域）		やや少	並
		果樹カメムシ類	ツヤアオカメムシ	やや少	やや少
			チャバネアオカメムシ	やや少	やや少
		果実吸蛾類（県本土・熊毛地域）		やや多	やや多
		〃　（奄美地域）		並	並
茶樹	チャ	カンザワハダニ		並	並

【 病 害 虫 発 生 予 報 】

Ⅰ．野　菜

防除に関する今月の留意事項

【施設野菜】

１．タバココナジラミ

タバココナジラミはトマト黄化葉巻病，キュウリ/メロン退緑黄化病の病原ウイルス（ＴＹＬＣＶ，ＣＣＹＶ）を媒介し，サヤインゲンに白化莢，トマトに着色異常果を発生させるので，以下の点を考慮し，育苗期から定植初期の総合的な対策が重要である。

（１）ハウス周辺，内部の雑草は媒介虫の生息・増殖場所になるので，定植10日前までに除草する。

（２）侵入を防ぐため，ハウス開口部（サイド等）には必ず防虫ネットを設置する。
なお，ハウスに寒冷紗を張る等，昇温抑制対策をできる限り行う。

（３）防虫ネットの設置のみでは侵入を防ぐことはできないので，定植時には必ず粒剤を施用する。

（４）ハウス内には黄色粘着トラップを設置し，早期発見・初期防除に努める。

（５）同一系統薬剤の連用を避け，作用性の異なる薬剤のローテーション散布に努める。

２．果菜類のアザミウマ類

アザミウマ類は直接的な被害をもたらす以外にウイルス病を媒介する種も存在する。これらを効率的に防除するには育苗期から定植初期の総合的な対策が重要である。

（１）ハウス周辺及び内部の雑草は発生源になるので，定植10日前までに除草する。

（２）成虫の侵入を抑制するために紫外線カットフィルム等を利用する。
なお，ミツバチなどの訪花昆虫を使用する場合は，活動が妨げられる恐れがあるので，紫外線カットフィルムは使用しない。

（３）ハウス開口部（サイド等）から侵入することが多いので，防虫ネットを展張するとともに，青色粘着トラップを設置し，早期発見と初期防除に努める。

（４）防虫ネットの設置のみでは侵入を防ぐことはできないので，定植時には必ず粒剤を施用する。

【露地野菜】

１．キャベツ，ブロッコリー，マメ類等のチョウ目害虫（令和２年度技術情報第13号（８月27日付け）参照）

キャベツでは定植前の潅注処理剤等による防除を行ったほ場でも，今後残効が切れる時期を迎えるため，コナガやハスモンヨトウ等のチョウ目害虫の被害増加が懸念される。各ほ場の実状に合わせ，結球前及び生育初期の防除を徹底する。

（１）発生状況は各地域で異なるため，ほ場を見回り，新たな被害を認めたら直ちに防除を行う。

（２）同一系統薬剤の連用を避け，作用性の異なる薬剤とのローテーション散布に努める。なお，薬剤は平成29年度技術情報第10号（ホームページにも掲載）を参照。

２．カボチャのうどんこ病

例年10月に発病が急増する。今後，葉の老化に伴い発生が多くなりやすいので，発病に注意し，予防に努める。

（１）同一系統薬剤の連用を避け，作用性の異なる薬剤のローテーション散布に努める。

（２）葉の裏面にも発生するので，葉裏まで丁寧に薬剤を散布する。

（３）残渣中の子のう殻で越冬するため，収穫終了後の残渣は適正に処分する。

Ⅱ．花き（キク）

（１）黒斑病・褐斑病

ア　予報内容

（ア）発生地域　　奄美地域（露地）

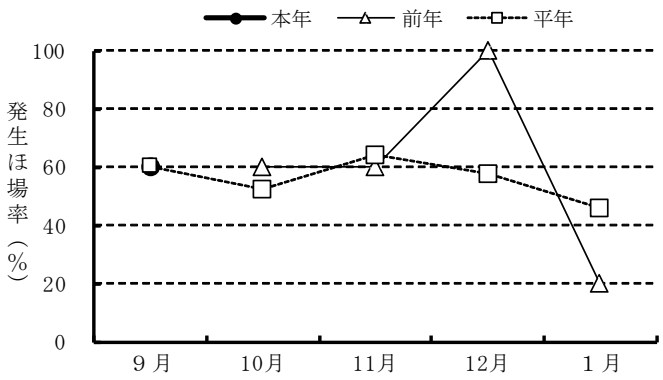
（イ）発 生 量　　並

イ　予報の根拠

（ア）調査結果　発生量：並

発生ほ場率60%（平年60%）

：並



黒斑病・褐斑病の発生ほ場率（奄美地域 露地）

ウ　防除上注意すべき事項

（ア）通風採光及び排水に努め，かん水は土が跳ね上がらないようにする。

（イ）被害葉を早めに除去する。

（ウ）肥料切れ，窒素過多にならないよう適正施肥に努める。

（エ）防除は，植え付け時から行い，台風通過後に発生が多いので予防散布を行う。

（２）ハダニ類

ア　予報内容

（ア）発生地域　　県本土(施設)

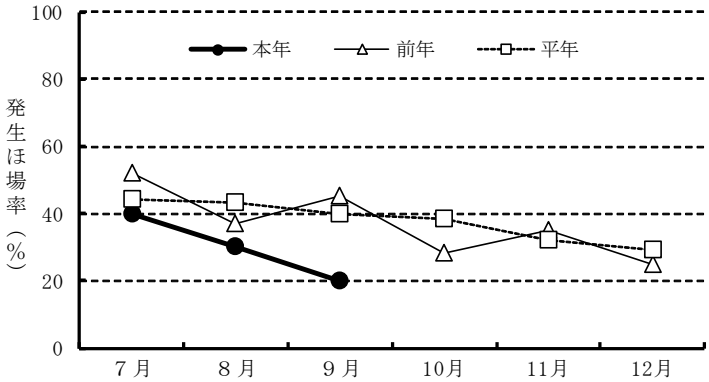
（イ）発 生 量　　少

イ　予報の根拠

（ア）調査結果　発生量：少

発生ほ場率20%（平年40%）

：低い（－）



ハダニ類の発生ほ場率（県本土 施設）

ウ　防除上注意すべき事項

（ア）出入口や前作での発生場所近く等でスポット状に発生する場合が多いので，ほ場全体をよく見回り，早期発見と初期防除に努める。

（イ）ほ場内と周辺の雑草や収穫後の残さ等は早めに除去し，適正に処分する。

（ウ）薬剤は葉裏までよくかかるように散布する。

（エ）同一系統薬剤の連用を避け，作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。

（３）アザミウマ類

ア　予報内容

（ア）発生地域　　県本土（施設）

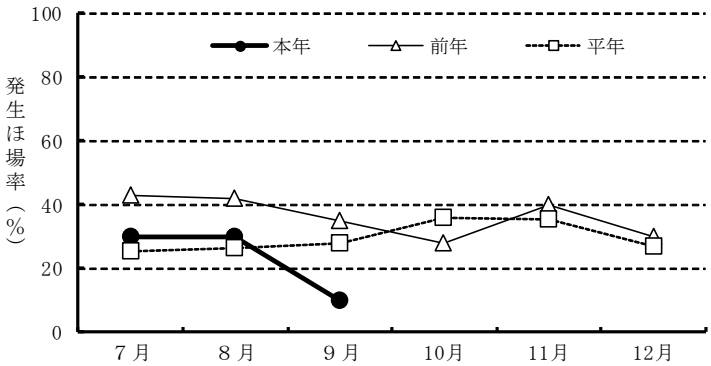
（イ）発 生 量　　少

イ　予報の根拠

（ア）調査結果　発生量：少

発生ほ場率10%（平年28%）

：低い（－）



アザミウマ類（被害葉）の発生ほ場率（県本土 施設）

ウ　防除上注意すべき事項

（ア）アザミウマ類はキクえそ病（ＴＳＷＶ），キク茎えそ病（ＣＳＮＶ）を媒介する。

（イ）母株や苗の導入に際しては，アザミウマ類の寄生やウィルス感染に細心の注意を払う。

（ウ）ハウスの開口部には目合い0.6mm以下の防虫ネットを張る。

（エ）ハウスの開口部等に青色粘着トラップを設置し，早期発見と初期防除に努める。

（オ）除草等の環境整備を行うとともに，母株の防除を徹底する。

（カ）同一系統薬剤の連用を避け，作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。

（キ）栽培終了後は，速やかに残渣を処分する。

Ⅲ．果　樹

１．カンキツ

（１）かいよう病

ア　予報内容

（ア）発生地域　　県内全域

（イ）発 生 量

　　県本土・熊毛地域(果実)　　やや少

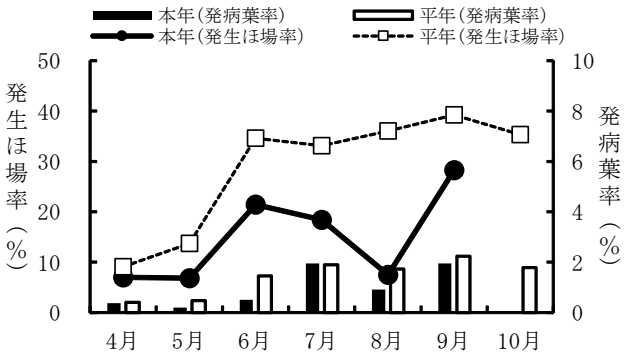
　　奄　美　地　域(果実)　　やや少

イ　予報の根拠

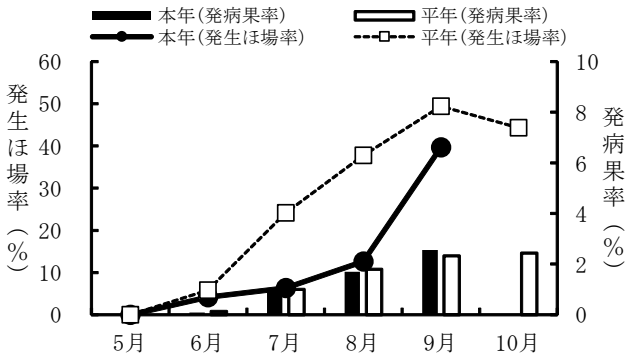
＜県本土・熊毛地域＞

（ア）調査結果

	春葉	果実
発　生　量	やや少	やや少
発生ほ場率	28％（平年 39％）：やや低い（－）	40％（平年 49％）：やや低い（－）
発　病　率	1.9％（平年2.2％）：並	2.6％（平年2.3％）：並



かいよう病の発生ほ場率と発病葉率
(春葉, 県本土・熊毛)



かいよう病の発生ほ場率と発病果率
(果実, 県本土・熊毛)

＜奄美地域＞

（ア）調査結果

	春葉	果実
発　生　量	少	やや少
発生ほ場率	０％（平年 27％）：低い（－）	０％（平年 22％）：やや低い（－）
発　病　率	０％（平年0.6％）：やや低い（－）	０％（平年0.3％）：やや低い（－）

ウ　防除上注意すべき事項

（ア）台風の接近が予想される場合は，３日前～前日の予防散布を行う。また，菌は降雨時に飛散・伝搬され，多雨年に発生が多いので，降雨にも注意する。

（イ）秋季に感染して翌春病斑を作る越冬病斑は伝染力が強いので，菌密度を低下させるため，発病した夏秋梢やミカンハモグリガの食害を受けた夏秋梢はせん除する。

（２）黒点病

ア　予報内容

（ア）発生地域　　県内全域

（イ）発 生 量

県本土・熊毛地域　　やや多

奄　美　地　域　　並

イ　予報の根拠

＜県本土・熊毛地域＞

（ア）調査結果　発生量：やや多

発生ほ場率　50％（平年　50％）

：並

発 病 果 率12.1％（平年11.5％）

：並

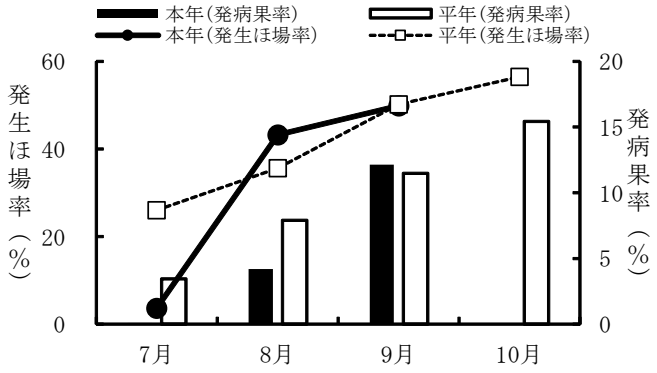
発生程度の高いほ場を認めた（＋）

＜奄美地域＞

（ア）調査結果　発生量：並

発生ほ場率０％（平年　９％）：並

発 病 果 率０％（平年1.4％）：並



黒点病の発生ほ場率と発病果率
（果実,県本土・熊毛）

ウ　防除上注意すべき事項

（ア）後期黒点病対策として，多雨が予想される場合には予防散布を行う。

（イ）伝染源となる枯れ枝はこまめにせん除し，せん定くずは園外に持ち出して処分する。

（３）ミカンハダニ

ア　予報内容

（ア）発生地域　　県内全域

（イ）発 生 量

県本土・熊毛地域　　やや少

奄　美　地　域　　並

イ　予報の根拠

＜県本土・熊毛地域＞

（ア）調査結果 発生量：少

発生ほ場率 ３％（平年 29％）

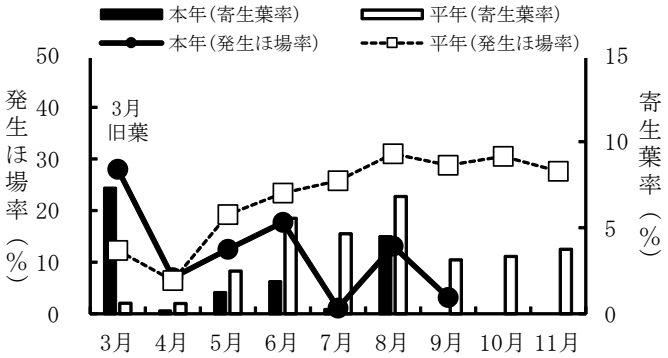
：低い（－）

寄 生 葉 率0.1％（平年3.4％）

：低い（－）

（イ）気象予報

降水量：平年並みか少ない（＋）



ミカンハダニの発生ほ場率と寄生葉率
（春葉,県本土・熊毛）

＜奄美地域＞
（ア）調査結果　発生量：やや少
発生ほ場率　０％（平年 16%）：やや低い（－）
寄 生 葉 率　０％（平年1.9%）：並
（イ）気象予報
気　温：平年並みか高い（＋）
ウ　防除上注意すべき事項
（ア）１葉当たり雌成虫数0.5～1.0頭（寄生葉率で30～40%）を目安に防除する。
（イ）同一系統薬剤の使用は年１回とし，葉裏までかかるように丁寧に散布する。

（４）果樹カメムシ類（ツヤアオカメムシ，チャバネアオカメムシ）
ア　予報内容
（ア）発生地域　　県本土
（イ）発 生 量　　ツヤアオカメムシ　　やや少
チャバネアオカメムシ　やや少
イ　予報の根拠
（ア）調査結果　発生量：やや多
発生ほ場率　９％（平年　５％）：やや高い（＋）

予察灯の誘殺虫数，９月第１～４半旬の合計　（単位：頭）

調査地点	ツヤアオカメムシ 本年	ツヤアオカメムシ 平年	チャバネアオカメムシ 本年	チャバネアオカメムシ 平年
南さつま市金峰町	6	851	24	1,335
南さつま市加世田	6	170	5	444
いちき串木野市湊町	0	475	3	450
出水市美原町	6	2,217	31	14,284
鹿屋市串良町	54	189	25	182
誘殺虫数	やや少（－）		やや少（－）	

ウ　防除上注意すべき事項
（ア）餌となるスギ・ヒノキの球果が，台風等で落果すると，果樹園へ飛来する場合があるので注意する。
（イ）果樹カメムシ類の飛来は地域間差，ほ場間差があるため，こまめに園内外をよく見回り，飛来を認めたら直ちに防除する。

（５）果実吸蛾類
ア　予報内容
（ア）発生地域　　県内全域
（イ）発 生 量
県本土・熊毛地域　　やや多
奄　美　地　域　　並
イ　予報の根拠
＜県本土・熊毛地域＞
（ア）調査結果 発生量：やや多
発生ほ場率 22%（平年　９％）：高い（＋）
発生程度は低い（－）

＜奄美地域＞

（ア）調査結果　発生量：並

発生ほ場率　０％（平年　０％）：並

ウ　防除上注意すべき事項

（ア）果実吸蛾類は果実を吸汁・加害し腐敗落果させる。夜間に活動し果皮の薄い早生温州等に集まりやすい。

（イ）網目５～10㎜の防蛾網で被覆するほか，幼虫の食草となるアケビ，ムベ，アオツヅラフジ等を極力除去する。黄色忌避灯を用いる場合は，ほ場全体が２Lux以上の明るさになるように設置する。

防除に関する今月の留意事項

１．カンキツ

（１）サビダニ類

ア　県内のほぼ全域に生息するリュウキュウミカンサビダニは，秋季以降も果実上で加害し続けるので，被害果を認めたら直ちに防除する。

イ　昨年秋季に多発したほ場では，同じほ場で発生する場合が多いので，防除に努める。

２．ナシ

（１）黒星病

黒星病は，葉・花梗・新梢に発生し早期落葉や果実の裂果の原因となる。病原菌は枝にある芽りん片で越冬するため，芽りん片への感染を少なくするため防除が重要である。特に，本年発生が多かった園では，翌春の伝染源を減らすことが重要である。

ア　腋花芽への感染を防止するため，収穫後（10月，11月）に必ず２～３回防除する。

イ　罹病して落葉した葉は伝染源となるので処分する。

Ⅳ．茶　樹

（１）カンザワハダニ

ア　予報内容

（ア）発生地域　　県本土

（イ）発 生 量　　並

イ　予報の根拠

（ア）調査結果　発生量：並

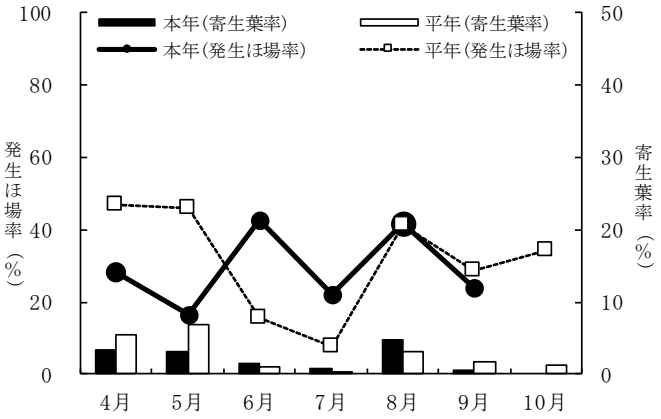
発生ほ場率 24%（平年 29%）：並

寄 生 葉 率0.6%（平年1.8%）

：やや低い（－）

（イ）気象予報

降水量：平年並みか少ない（＋）



カンザワハダニの発生ほ場率と寄生葉率

ウ　防除上注意すべき事項

（ア）越冬前のハダニの密度は翌春の発生量に大きく影響するので，秋整枝後に防除を行う。発生の多い園では秋整枝直後と11月中旬～下旬に防除を行う。

（イ）薬剤は，葉裏まで十分にかかるように散布する。

農薬の適正使用について

農薬は以下の点に注意して適正に使用しましょう。

１．使用前にラベルや説明書をよく読む。

決められた対象作物・使用時期・回数・使用濃度等を守り，記載された用途，方法以外では使用しない。

２．使用する農薬にあわせて，適切な防除衣，保護具（マスク・手袋など）を着用する。

３．散布前には防除器具の整備・点検をする。

４．体調がすぐれないときは散布作業を避ける。

５．散布時には薬剤がほ場の外に飛散したり，流出したりしないよう十分注意する。

６．クロルピクリン剤は，住宅地および畜舎に隣接するほ場や，無風の時，土壌が乾燥しているときは使用しない。注入後は直ちに穴をふさぎポリエチレンフィルム等で10日以上被覆する。

７．ランネート剤は毒性が強いので，施設内や噴霧のこもりやすい場所では使用しない。

８．使用期限の切れた農薬，不要になった農薬および使用済みの空容器は適正に処分する。

９．農薬は食品と区別し，鍵をかけて保管する。

10．農薬の散布記録をつけておく。

「予報の根拠」の記載方法

○調査結果の発生量は，前月の巡回及び定点調査による。
○野菜類共通病害虫の発生量は，各作物での発生量やトラップ調査結果等を総合的に基づいた総合評価。
○発生ほ場率と調査場所を記載しない発生数・発生率は，巡回調査の結果。
○果樹と茶樹の定点防除園又は無防除園は，果樹部と茶業部での調査結果。
○調査結果や気象予報等の末尾の（＋），（－）は，発生量の増加，減少要因を示す。
○気象予報は，向こう１か月の長期予報。
○平年値は原則として過去10年間の平年を用い，本年調査値の後に（平年○○）で表記する。ただし，過去３年間の平均値を用いた場合は（過去３年○○）と表記する。